

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
1	鐵砲の傳來に就いて	長沼 賢海	1	1929	S4
2	九州に於ける銅鐸	中山 平次郎	1	1929	S4
3	室町時代に於ける貨幣の流通状態	玉泉 大梁	1	1929	S4
4	支那古代の物價調節策について	重松 俊章	1	1929	S4
5	法皇レオ十三世論の一端	長 壽吉	2	1930	S5
6	伊曾保物語繪卷	長沼 賢海	2	1930	S5
7	宋元時代の白雲宗門	重松 俊章	2	1930	S5
8	ものゝあはれと出家：源氏物語の一考察	竹岡 勝也	2	1930	S5
9	福岡縣成屋形の古墳について	山本 博、山本 嘉藏	2	1930	S5
10	顯孝禪寺趾に就て	筑紫 頼定	2	1930	S5
11	オリヴァ以後	長 壽吉	3	1931	S6
12	暗黒時代の宗教一揆	長沼 賢海	3	1931	S6
13	唐宋時代の彌勒教匪：附、更生佛教匪	重松 俊章	3	1931	S6
14	國學者としての増穂殘口の地位	竹岡 勝也	3	1931	S6
15	一九〇七年に於ける英露協商成立の研究(一)	大村 作次郎	3	1931	S6
16	社會政策家としてのBismarck	島村 保	3	1931	S6
17	中世に於ける社寺金融の特別低利率について	伊奈 建次	3	1931	S6
18	北宋初期の便糶に就いて	森佳 利直	3	1931	S6
19	元寇と神風	長沼 賢海	4	1932	S7
20	最近帝國主義勃興の經濟的原因に就て	大村 作次郎	4	1932	S7
21	水戸學と佛教	河野 福夫	4	1932	S7
22	彌生式土器論と北九州(一)：細線鋸齒絞鏡の新古	山本 博	4	1932	S7
23	ケレタロの罪の由來に就て	長 壽吉	5	1932	S7
24	章學誠の方志學	井邊 一家	5	1932	S7
25	ビスマルクと奥匈國內の獨逸族	小林 榮三郎	5	1932	S7
26	彌生式土器と北九州(二、完)：細線鋸齒絞鏡の新古	山本 博	5	1932	S7
27	建武前後の神佛の信仰關係	長沼 賢海	6	1933	S8
28	シンジヤ地領繼承の關係	長 壽吉	6	1933	S8
29	一九〇七年に於ける英露協商成立の研究	大村 作次郎	6	1933	S8
30	元寇役恩賞地の配分に就いて	鏡山 猛	6	1933	S8
31	侯國政治訓諭の一考察	長 壽吉	7	1933	S8
32	セラエヅ事件に對するセルビア政府の責任	大村 作次郎	7	1933	S8
33	近世復古主義の源流に就ての一考察	竹岡 勝也	7	1933	S8
34	元寇と松浦黨	長沼 賢海	7	1933	S8
35	プウランジェ運動	益田 健次	7	1933	S8
36	セラエヅ事件に對するセルビア政府の責任(二)	大村 作次郎	8	1933	S8
37	新井白石の古代觀と神道觀	竹岡 勝也	8	1933	S8
38	廬山文化の黎明	井上 以智爲	8	1933	S8
39	再保險條約不更新とホルシュタインの心境	小林 榮三郎	8	1933	S8
40	海防論者としての魏默深	井邊 一家	8	1933	S8
41	廬山文化と慧遠	井上 以智爲	9	1934	S9
42	生子信教に關するケルン諍論	長 壽吉	9	1934	S9
43	法華念佛兩宗の展開と唯一宗源神	長沼 賢海	9	1934	S9
44	三河一向一揆の研究	青木 義憲	9	1934	S9
45	松浦黨の發展及び其の黨的生活(上)	長沼 賢海	10	1935	S10

『史淵』 文献目録(昭和・平成) :  
 昭和4(1929)年 第1号 ~ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
46	オルシニ事變の前後(一)	長 壽吉	10	1935	S10
47	南宋四川の對羅に就いて	森住 利直	10	1935	S10
48	十九世紀獨逸史學史の一齣:所謂「プロシヤ派」に関する一考察	讚井 鉄男	10	1935	S10
49	安南史上の一政權としての土變	山内 晋卿	11	1935	S10
50	松浦黨の發展及び其の黨的生活(中)	長沼 賢海	11	1935	S10
51	新尚古主義と二州問題の言論	長 壽吉	11	1935	S10
52	一九一二年の「ハルデー派遣」を主とする英獨海軍關係(一)	大村 作次郎	11	1935	S10
53	本邦佛寺の高利貸徵利認容の根據について	伊奈 健次	11	1935	S10
54	一八七八年基教社會黨の地位	長 壽吉	12	1936	S11
55	一九一二年の「ハルデー派遣」を主とする英獨海軍關係(二)	大村 作次郎	12	1936	S11
56	海外交通史上の壹岐	長沼 賢海	12	1936	S11
57	唐宋時代の末尼教と魔教問題	重松 俊章	12	1936	S11
58	マッシーニと青年イタリヤ	讚井 鉄男	12	1936	S11
59	「先秦に於ける王道論の展開」	西本 壯吉	12	1936	S11
60	五代の沿徴に就いて	日野 開三郎	13	1936	S11
61	懷良親王の征西路考	長沼 賢海	13	1936	S11
62	第二帝政末期六〇年代前期に於ける自由帝政の變革	長 壽吉	13	1936	S11
63	一九一二年の「ハルデー派遣」を主とする英獨海軍關係(三)	大村 作次郎	13	1936	S11
64	日韓關係雜攷	鏡山 猛	13	1936	S11
65	若狹國太良莊の崩壞過程	安河内 博	13	1936	S11
66	世界史と國民史滯歐所感の一節	竹岡 勝也	13	1936	S11
67	大宰府藏司の礎石と正倉院	鏡山 猛	14	1936	S11
68	唐・河陽三城節度使考	日野 開三郎	14	1936	S11
69	唐沙門法琳傳について	庄野 眞澄	14	1936	S11
70	第一モロッコ問題とフォン・ホルシュタイン	小林 榮三郎	14	1936	S11
71	ビスマルクの岐路と運命	長 壽吉	15	1937	S12
72	浮世の成立	竹岡 勝也	15	1937	S12
73	神道に現はれたる他力念佛の影響	長沼 賢海	15	1937	S12
74	日本書紀に現れたる百濟王曆に就いて	鏡山 猛	15	1937	S12
75	五代藩鎮の舉絲絹と北宋朝の預買絹:五代苛政の一面	日野 開三郎	15	1937	S12
76	三代世表考:殷周始租を中心として	本城 説治	15	1937	S12
77	グレー内閣の選舉法改正に於ける上院議員任命問題	岡野 平吉	15	1937	S12
78	ビスマルクと七五年危機	長 壽吉	16	1937	S12
79	浮世の成立(承前)	竹岡 勝也	16	1937	S12
80	五代藩鎮の舉絲絹と北宋朝の預買絹(二・完)	日野 開三郎	16	1937	S12
81	鐵砲の傳來と其の普及	長沼 賢海	16	1937	S12
82	太宰府の遺蹟と條坊(其一)	鏡山 猛	16	1937	S12
83	所謂ボイストの報復政策について	小林 榮三郎	16	1937	S12
84	世阿彌の能樂論に於ける基調的思想	西尾 陽太郎	16	1937	S12
85	博多商人宗金とその家系	有光 保茂	16	1937	S12
86	唐・河陽三城節度使考(二・完)	日野 開三郎	17	1937	S12
87	太宰府の遺蹟と條坊(其二)	鏡山 猛	17	1937	S12
88	ヘーゲルの「ドイツ憲法」とドイツ的自由	小林 榮三郎	17	1937	S12
89	近世獨逸猶太族とハインリッヒ・ハイネ:ハイネの猶太思想を中心として	服部 哲郎	17	1937	S12
90	敦煌本還冤記残に就いて	重松 俊章	17	1937	S12

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
91	魏略の佛傳に關する二三の問題と老子化胡説の由來	重松 俊章	18	1938	S13
92	ヘンデルの政治的關心と「人性書簡」	小林 榮三郎	18	1938	S13
93	日唐交通と新羅神の信仰 (一)	鏡山 猛	18	1938	S13
94	後三條天皇の御讓位に就きて	河野 房雄	18	1938	S13
95	戦國時代の武家生活と學問：大内氏と毛利氏	檜垣 元吉	18	1938	S13
96	ピスマルクと伊太利戦役前後	長 壽吉	19	1938	S13
97	プーフェンドルフの「ドイツ帝國政情論」について	小林 榮三郎	19	1938	S13
98	元亨釋書續考	長沼 賢海	19	1938	S13
99	反復古主義者香川景樹	竹岡 勝也	19	1938	S13
100	日唐交通と新羅神の信仰 (二)	鏡山 猛	19	1938	S13
101	支那古代史の一觀察	重松 俊章	19	1938	S13
102	唐代の閉糴と禁錢	日野 開三郎	19	1938	S13
103	サモア紛争：アメリカ合衆國外交史の一考察	太田 等	19	1938	S13
104	モダニズムの思想的な前提	伊岐須 清	19	1938	S13
105	噶爾丹侵入當時の外蒙喀爾喀葛	井邊 一家	19	1938	S13
106	嘉慶年間の英國の澳門(マカオ)占領について	中江 健三	19	1938	S13
107	義鑑時代に於ける大友氏	本田 不二郎	19	1938	S13
108	禪一考	原田 文枝	19	1938	S13
109	門司關と門司氏	長沼 賢海	20	1939	S14
110	神宗朝を中心として觀たる北宋時代の結糴	日野 開三郎	20	1939	S14
111	自邦主義と系族：特にボイスト及びダルヴィクについて	小林 榮三郎	20	1939	S14
112	ピスマルクの對社會民主黨策	田中 友次郎	20	1939	S14
113	筑前麻生氏について	長沼 賢海	21	1939	S14
114	モッシュェロシュの祖国愛と外国文化：特に「フィランダーの幻想」について	小林 榮三郎	21	1939	S14
115	ジュール・ミシュンの反教會思想	鄭 賢奎	21	1939	S14
116	我が古代社會に於ける甕棺葬	鏡山 猛	21	1939	S14
117	支那三教史上の若干の問題	重松 俊章	21	1939	S14
118	一八六九年の羅馬問題に就いて	長 壽吉	22	1939	S14
119	唐代便換考	日野 開三郎	22	1939	S14
120	巖島附近の海上史 (上)	長沼 賢海	22	1939	S14
121	唐代便換考 (二)	日野 開三郎	23	1940	S15
122	アーダム・ミュラーの世界史觀とゲルマーニア理念	小林 榮三郎	23	1940	S15
123	中世末期大湊海關の通貨について	伊奈 健次	23	1940	S15
124	鎌倉時代に於ける起請文の成立とその特質	宮下 勝次	23	1940	S15
125	イタリヤに於ける歴史記述の契機と展望：前駐日イタリヤ大使チャチント・アウリーティ氏に捧ぐその在任九箇年の芳情を深謝して	武藤 智雄	24	1940	S15
126	論證史學のファタリスムとギゾオ時代	長 壽吉	24	1940	S15
127	清代社會に於ける紳士の存在	木村 正一	24	1940	S15
128	宋元時代の紅巾軍と元末の彌勒・白蓮教匪に就いて (上)	重松 俊章	24	1940	S15
129	巖島附近の海上史 (中)	長沼 賢海	24	1940	S15
130	ピスマルクの性格	長 壽吉	25	1941	S16
131	唐代便換考 (三完)	日野 開三郎	25	1941	S16
132	記紀の原始文化論的研究の諸問題に就いて	中井 虎一	25	1941	S16
133	ヴォルテールの上代フランス觀	小林 榮三郎	25	1941	S16
134	原始箱式石棺の姿相 (一)	鏡山 猛	25	1941	S16

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
135	漢代文様の雲崗石窟に於ける展開	竹岡 勝也	25	1941	S16
136	巖島附近の海上史 (下)	長沼 賢海	25	1941	S16
137	五代閩國の對中原朝貢と貿易 (上)	日野 開三郎	26	1941	S16
138	シャーフツベリの精靈論とその影響	小林 榮三郎	26	1941	S16
139	巖島附近の海上史 (下)	長沼 賢海	26	1941	S16
140	ライン小國制度とその運命	辛島 重義	26	1941	S16
141	宋元時代の紅巾軍と元末の彌勒・白蓮教匪に就いて (中)	重松 俊章	26	1941	S16
142	五代閩國の對中原朝貢と貿易 (下)	日野 開三郎	27	1942	S17
143	原始箱式棺の姿相 (二・完)	鏡山 猛	27	1942	S17
144	支那繪畫に於ける寫實思想の開展：五代を中心として	岸田 勉	27	1942	S17
145	島津氏の南方交通：大迫文書に関する考察	長沼 賢海	27	1942	S17
146	小早川氏の海上勢力	長沼 賢海	27	1942	S17
147	源平合戦と緒方氏の擧兵	波多野 暁三	28	1943	S18
148	ビューナウの「ドイツ帝國史」について：ドイツ國民イシイの連續性に關する一考察	小林 榮三郎	28	1943	S18
149	渤海・金の建國と敦化地方の産鐵	日野 開三郎	28	1943	S18
150	宋元時代の紅巾軍と元末の彌勒・白蓮教匪に就いて (下の一)	重松 俊章	28	1943	S18
151	晩清洋務運動史論	本村 正一	29	1943	S18
152	テーヌと歴史	讚井 鉄男	29	1943	S18
153	兀惹部の發展 (一)	日野 開三郎	29	1943	S18
154	中世神道と慈遍	竹岡 勝也	29	1943	S18
155	兀惹部の發展 (二)	日野 開三郎	30/31	1944	S19
156	ドイツ晩期中世と人文主義：國民意識史の観点から	小林 榮三郎	30/31	1944	S19
157	興福寺講衆について：特に検断を中心として	鈴木 止一	30/31	1944	S19
158	最近世の米墨關係	百武 常夫	30/31	1944	S19
159	福岡藩に於ける洋學の性格	井上 忠	30/31	1944	S19
160	「和學一步」と「奇觀録」	竹岡 勝也	30/31	1944	S19
161	明末満州に於けるガシヤンの諸形態	江嶋 壽雄	32	1944	S19
162	兀惹部の發展 (三)	日野 開三郎	32	1944	S19
163	宋元時代の紅巾軍と元末の彌勒・白蓮教匪に就いて (下の二、完)	重松 俊章	32	1944	S19
164	日本書紀の傳來と諸本に關する一考察	榊原 末一	33	1945	S20
165	兀惹部の發展 (四・完)	日野 開三郎	33	1945	S20
166	國學の理念と擁夷論への展開	竹岡 勝也	33	1945	S20
167	夫餘國考：特にその中心地の位置に就いて	日野 開三郎	34	1946	S21
168	サン・シモン公の備忘録	讚井 鉄男	34	1946	S21
169	勿吉考	日野 開三郎	35	1946	S21
170	日本古代殉葬に就いての一考察 (一)	鏡山 猛	35	1946	S21
171	清初雨准監商に關する一考察 (一)	鈴木 正	35	1946	S21
172	靺鞨七部考	日野 開三郎	36/37	1947	S22
173	心敬と禪竹	西尾 陽太郎	36/37	1947	S22
174	雅びの道：宣長の文藝論の一理解	城福 勇	36/37	1947	S22
175	清初雨准監商に關する一考察 (二) 完	鈴木 正	36/37	1947	S22
176	靺鞨七部の前身とその屬種：靺鞨七部考第二章	日野 開三郎	38/39	1948	S23
177	ヒューマニストの古ゲルマン研究について	小林 榮三郎	38/39	1948	S23
178	ヴァンドオム廣場事件の考察	長 壽吉	40	1949	S24

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
179	楽浪文化と日本の黎明：日本上代史の再検討	重松 俊章	40	1949	S24
180	佛舍利相承系圖と日宋交通との連関	森 克己	40	1949	S24
181	宋代稻作貸給種及布種畝額考	日野 開三郎	40	1949	S24
182	エルヴェシユスの天才論における矛盾：「精神論」の知能平等説について	小林 榮三郎	40	1949	S24
183	不盡言と徂徠派	西尾 陽太郎	40	1949	S24
184	福岡藩政史の研究：天保の改革（一）	檜垣 元吉	40	1949	S24
185	粟末靺鞨の對外關係(高句麗滅亡以前)：靺鞨七部考第三章	日野 開三郎	41	1949	S24
186	日本封建制と寺院(後編の一)：興福寺の場合	竹内 理三	41	1949	S24
187	日宋麗連鎖關係の展開	森 克己	41	1949	S24
188	ジョン・ロックとアメリカ革命	服部 哲郎	41	1949	S24
189	粟末靺鞨の對外關係（その二）：靺鞨七部考第三章	日野 開三郎	42	1949	S24
190	讃岐守時代の道眞	西尾 陽太郎	42	1949	S24
191	清初史に於ける二三の問題に就て	江嶋 壽雄	42	1949	S24
192	宋銅錢の我が國流入の端初	森 克己	43	1950	S25
193	天武「八姓」制定の意義	竹内 理三	43	1950	S25
194	粟末靺鞨の對外關係(その三)：靺鞨七部考第三章	日野 開三郎	43	1950	S25
195	近世初期農村社會の構成	安藤 精一	43	1950	S25
196	「知太政官事」考	竹内 理三	44	1950	S25
197	總章元年唐將薛仁貴の攻陥せる扶餘城：靺鞨七部考第三章附説	日野 開三郎	44	1950	S25
198	能樂における藝術理念の生成：特にその幽玄精神の成長について	西尾 陽太郎	44	1950	S25
199	北宋前半期に於ける廢監租佃の問題	古川 新平	44	1950	S25
200	隋唐に帰属せる粟末靺鞨人突地稽一党：附説 唐に帰属せる粟末靺鞨烏素固部"靺鞨七部考第四章"	日野 開三郎	45	1950	S25
201	近世に於ける對鮮密貿易と對馬藩	森 克己	45	1950	S25
202	舊唐書食貨志の史料系統について	鈴木 俊	45	1950	S25
203	ジャクソニアン・デモクラシーと銀行戦	櫻井 東樹	45	1950	S25
204	契丹の回跋部女直経略に就いて	日野 開三郎	46	1951	S26
205	十五、六世紀におけるドイツ都市市民の階層化について	今来 陸郎	46	1951	S26
206	中世公家生活史考：特に近衛政家の宗数生活について	渡邊 正氣	46	1951	S26
207	律令官位制に於ける階級性	竹内 理三	47	1951	S26
208	契丹の回跋部女直経略に就いて(二)	日野 開三郎	47	1951	S26
209	原城一揆の研究	檜垣 元吉	47	1951	S26
210	北宋前宇期における藤監租佃の問題(二)	古川 新平	47	1951	S26
211	遣唐使と新羅・渤海との關係	森 克己	48	1951	S26
212	契丹の回跋部女直経略に就いて(三)	日野 開三郎	48	1951	S26
213	安楽自在二州に就て	江嶋 壽雄	48	1951	S26
214	北部イングランドにおけるマナの構造	松垣 祐	48	1951	S26
215	渤海の扶餘府と契丹の龍州・黄龍府(一)	日野 開三郎	49	1951	S26
216	「参議」制の成立：附「知太政官事」考補遺	竹内 理三	49	1951	S26
217	ピュータニズムとアメリカ・デモクラシー：その連関性についての一考察	服部 哲郎	49	1951	S26
218	佐嘉藩多久領地米制度の概観	三木 俊秋	49	1951	S26
219	ジャン・ボダンと近世史	長 壽吉	50	1951	S26
220	糸島水道と倭奴國：史淵第五十輯、感慨無量、淺學之嘆無邊	長沼 賢海	50	1951	S26

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
221	太監亦失哈に就て	江嶋 壽雄	50	1951	S26
222	石門心學の發生について：町人囊と都鄙問答との思想的關聯	西尾 陽太郎	50	1951	S26
223	稻：唐宋用語解の二	日野 開三郎	50	1951	S26
224	ドイツ中世都市の貴族團體	今來 陸郎	50	1951	S26
225	郡衙の構造：上野國交替使實録帳について	竹内 理三	50	1951	S26
226	遣唐使廢止に對する再吟味	森 克己	50	1951	S26
227	ドイツ舊歴史學派における發展段階と發展法則	小林 榮三郎	50	1951	S26
228	ジェファスンに於ける所有權思想の「革命」	服部 哲郎	50	1951	S26
229	九州石炭史の研究：筑前仲原村記録(一)	檜垣 元吉	50	1951	S26
230	唐代均田法施行の意義について	鈴木 俊	50	1951	S26
231	渤海の扶餘府と契丹の龍州・黃龍府(二)	日野 開三郎	51	1952	S27
232	康熙時代におけるゼスイットの測圖事業	三上 正利	51	1952	S27
233	歐船來航以前の海外交通と世界意識	森 克己	51	1952	S27
234	魏書烏孫國傳について：魏書西域傳批判への一齣	船木 勝馬	51	1952	S27
235	八世紀における大伴的と藤原的：大土地所有の進展をめぐつて	竹内 理三	52	1952	S27
236	渤海の扶餘府と契丹の龍州・黃龍府(三)	日野 開三郎	52	1952	S27
237	サン・シモンの社會思想と宗教：「新キリスト教」解釋の問題	小林 榮三郎	52	1952	S27
238	クリッテンデン妥協案の反響と奴隸制度	森 祐三	52	1952	S27
239	甕棺累考(一)：その群團と共有體	鏡山 猛	53	1952	S27
240	明治二十年における中江兆民：三醉人經綸問答をめぐる諸問題	西尾 陽太郎	53	1952	S27
241	隋末の亂と唐朝の成立	鈴木 俊	53	1952	S27
242	契丹の勃興期に於ける中國との關係：漢城を中心として	平島 貴義	53	1952	S27
243	平安時代の古文書(一)：特にその分布について	竹内 理三	54	1952	S27
244	ウォードの天才論と社會主義	小林 榮三郎	54	1952	S27
245	中世に於ける領主權確立をめぐつての一考察：薩摩國谷山郡の場合	鈴木 銳彦	54	1952	S27
246	福岡藩政史の研究：天保の改革(二)	檜垣 元吉	54	1952	S27
247	隋の遼西郡に就いて	日野 開三郎	55	1953	S28
248	甕棺累考：遠賀川式甕棺とその源流	鏡山 猛	55	1953	S28
249	植民地時代に於けるアメリカ南部の職人について	服部 哲郎	55	1953	S28
250	唐代の課について	松永 雅生	55	1953	S28
251	『思慮と追憶』の第十八章	長 壽吉	56	1953	S28
252	大月氏民族史雜考	重松 俊章	56	1953	S28
253	國際混血児	長沼 賢海	56	1953	S28
254	宋代の賃牛に就いて：宋代の賃・租牛と牛政の第一章	日野 開三郎	56	1953	S28
255	平安時代の古文書(二)：特にその内容について	竹内 理三	56	1953	S28
256	イングランド初期王政：ノルマン及び初期プランタジネット朝	藤原 浩	56	1953	S28
257	石蓋土壌に関する覚書	鏡山 猛	56	1953	S28
258	サン・レモン派の社會思想：バザールを中心として	小林 榮三郎	56	1953	S28
259	欧露の森林ステップ帯およびステップ帯の開拓	三上 正利	57	1953	S28
260	平安時代の古文書(三)：特にその内容について・続	竹内 理三	57	1953	S28
261	サン・レモンの天才論	小林 榮三郎	57	1953	S28
262	安政五年の違勅問題をめぐる政治思想史的考察：一橋慶喜擁立派の性格	山口 宗之	57	1953	S28
263	宋代の租牛に就いて：「宋代の賃・租牛と牛政」の第二章	日野 開三郎	58	1953	S28
264	高塚古墳の源流：支石墓と甕棺の行方	鏡山 猛	58	1953	S28
265	明初女直朝貢に関する二三の問題	江嶋 壽雄	58	1953	S28

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
266	唐代府兵制度に関する一疑問	菊池 英夫	58	1953	S28
267	一八六〇年代のドイツ労働組合とツンフト遺制(上)	小林 榮三郎	59	1953	S28
268	アウグスブルグにおける帝國都市の成立	今来 陸郎	59	1953	S28
269	十三、一四世紀の英國農村毛織物工業：ギルド制度との関連に於ける	藤原 浩	59	1953	S28
270	アメリカ史における革新主義の問題	福本 保信	59	1953	S28
271	宋初に於ける女眞の山東來航(一)：定安國考第五章	日野 開三郎	60	1954	S29
272	藤原政権と莊園	竹内 理三	60	1954	S29
273	ジェファスンとフランス革命	服部 哲郎	60	1954	S29
274	安政五年の違勅問題をめぐる政治思想史的考察：將軍繼嗣運動と尊攘派	山口 宗之	60	1954	S29
275	大唐府兵制時代に於ける團結兵の稱呼とその普及地域	日野 開三郎	61	1954	S29
276	初期日西交渉史上の一問題：秀吉のフィリピン招撫をめぐって	箭内 健次	61	1954	S29
277	樗牛における内面的必然性について	西尾 陽太郎	61	1954	S29
278	エフタルに関する中國史料について	船木 勝馬	61	1954	S29
279	甕棺累考三：一甕棺の源流再考	鏡山 猛	62	1954	S29
280	商業的農業の發展：エリザベス朝期	加藤 知弘	62	1954	S29
281	1860年代のドイツ労働組合とツンフト遺制(下)	小林 榮三郎	62	1954	S29
282	對馬藩寛文の改革について：大浦權太夫の失脚	檜垣 元吉	62	1954	S29
283	氏長者	竹内 理三	63	1954	S29
284	小高句麗國の研究(一)	日野 開三郎	63	1954	S29
285	末法思想の形成	田村 圓澄	63	1954	S29
286	明代女直の馬	江嶋 壽雄	63	1954	S29
287	リチャード二世及びランカスター朝の羊毛政策	藤原 浩	64	1955	S30
288	高句麗國遺民反唐分子の處置：「小高句麗國の研究」第二章	日野 開三郎	64	1955	S30
289	清大山東の學田	中村 治兵衛	64	1955	S30
290	南宋鎮撫使考	山内 正博	64	1955	S30
291	日本莊園研究の歴史：第一部 學風史的に	竹内 理三	65	1955	S30
292	ユストゥス・メーザーの政治的關心について	小林 榮三郎	65	1955	S30
293	中世都市における市民と政治：イタリア都市を中心として	今来 陸郎	65	1955	S30
294	T・ローズヴェルトと獨占資本：特に北方証券會社解体事件を中心として	福本 保信	65	1955	S30
295	奈良期の集落遺跡について	鏡山 猛	66	1955	S30
296	鎖國と平戸商人團	箭内 健次	66	1955	S30
297	ジェファスンにおける「社會主義」的立場：その財産権思想を中心として	服部 哲郎	66	1955	S30
298	日蓮の宗教の成立及び性格：鎌倉仏教研究序説	川添 昭二	66	1955	S30
299	環溝住居址小論(一)	鏡山 猛	67/68	1956	S31
300	一八五〇年代のドイツ労働運動「鎮静期」の問題(上)	小林 榮三郎	67/68	1956	S31
301	明治における國家と個人	西尾 陽太郎	67/68	1956	S31
302	唐代兵募の性格と名稱について	菊池 英夫	67/68	1956	S31
303	七月王朝期におけるパリ建築工の運動：とくに下請制廃止の要求をめぐって	井手 伸雄	67/68	1956	S31
304	南朝の貴族と豪族	越智 重明	69	1956	S31
305	福岡藩政史の研究：幕末の情勢	檜垣 元吉	69	1956	S31

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
306	長崎奉公長谷川左兵衛論考：近世外交政策の一考察	三宅 英利	69	1956	S31
307	一八五〇年代のドイツ労働運動「鎮静期」の問題（中）	小林 栄三郎	70	1956	S31
308	糸割符—商人研究序説（一）	箭内 健次	70	1956	S31
309	遼東馬市管見	江嶋 寿雄	70	1956	S31
310	五代禁軍に於ける侍衛親軍司の成立	菊池 英夫	70	1956	S31
311	環溝住居趾小論(二)	鏡山 猛	71	1956	S31
312	太宰府政所考	竹内 理三	71	1956	S31
313	清代山東の学田の小作	中村 治兵衛	71	1956	S31
314	ローマ共和政期に於けるシキリアの奴隷反乱と大土地所有制	馬場 典明	71	1956	S31
315	小高句麗の建國：「小高句麗闘の研究」第三章	日野 開三郎	72	1957	S32
316	西シベリアの民族およびウラル越え交通路	三上 正利	72	1957	S32
317	平安初期における国司郡司の関係について	平野 博之	72	1957	S32
318	近世都市長崎の形成	箭内 健次	73	1957	S32
319	一八五〇年代のドイツ労働運動「鎮静期」の問題（下）	小林 栄三郎	73	1957	S32
320	再建期アメリカ南部におけるプランテーション農業制度の再編	服部 哲郎	73	1957	S32
321	大唐・玄宗の戸口充実と課丁析出	松永 雅生	73	1957	S32
322	アウグスブルグにおけるツunft闘争と市政	今来 陸郎	74	1957	S32
323	劉宋の官界における皇親	越智 重明	74	1957	S32
324	環溝住居趾小論(三)	鏡山 猛	74	1957	S32
325	ロシアにおける産業革命の時期について	西島 有厚	74	1957	S32
326	薩摩の荘園：寄郡について	竹内 理三	75	1958	S33
327	突厥黙啜可汗の興亡と小高句麗国	日野 開三郎	75	1958	S33
328	幸徳秋水の青年時代：「明治における国家と個人」に關聯して	西尾 陽太郎	75	1958	S33
329	鎌倉幕府滅亡の歴史的な前提：鎮西探題裁許状の分析	瀬野 精一郎	75	1958	S33
330	東晋の豪族	越智 重明	76	1958	S33
331	初期カペー王朝のDomaine Royal（上）：フィリップ一世の時代における	森 洋	76	1958	S33
332	神國思想の系譜	田村 圓澄	76	1958	S33
333	占田課田制について	草野 靖	76	1958	S33
334	明代女直朝貢貿易の概観	江嶋 寿雄	77	1958	S33
335	初期カペー王朝のDomaine Royal（下）：フィリップ一世の時代における	森 洋	77	1958	S33
336	滝田紫城伝：福岡藩の洋学	槍垣 元吉	77	1958	S33
337	ダニエル・デ・レオンと米国社会労働党	野村 達朗	77	1958	S33
338	九州地方古文書（慶長以前）の蒐集整理	竹内 理三	78	1959	S34
339	一六四〇年のマカオ使節に関する一資料	箭内 健次	78	1959	S34
340	環溝住居趾小論(四)	鏡山 猛	78	1959	S34
341	備中国新見庄の名主：十三・四世紀に於ける	正木 喜三郎	78	1959	S34
342	突厥毗伽可汗と唐・玄宗との対立と小高句麗国	日野 開三郎	79	1959	S34
343	1860年代のドイツ労働運動と工場労働者（上）	小林 栄三郎	79	1959	S34
344	飛鳥仏教雑考	田村 圓澄	79	1959	S34
345	宋代の戸口統計上に所謂客戸について	草野 靖	79	1959	S34
346	南朝の租、調	越智 重明	80	1959	S34
347	1860年代のドイツ労働運動と工場労働者（中）	小林 栄三郎	80	1959	S34
348	転換期の騎士団国家（十四、五世紀の交の様相）	今来 陸郎	80	1959	S34



『史淵』文献目録(昭和・平成)：  
昭和4(1929)年 第1号 ～ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
349	チャーティズム末期における社会主義	古賀 秀男	80	1959	S34
350	庄園村落の遺構：筑後瀬高下庄の場合	鏡山 猛	81	1960	S35
351	突厥の瓦解・渤海の靺鞨諸族併呑と小高句麗国の九州増領	日野 開三郎	81	1960	S35
352	明治における国家と個人（承前）：石川啄木の場合	西尾 陽太郎	81	1960	S35
353	福岡県糸島郡旧糸島高等女学校校庭出土の甕棺	渡辺 正気	81	1960	S35
354	参詣発達の一前提：社会の援助	新城 常三	82	1960	S35
355	陰陽寮成立以前	田村 円澄	82	1960	S35
356	魏晋の客戸について	越智 重明	82	1960	S35
357	唐津藩石炭史の研究	檜垣 元吉	82	1960	S35
358	奈良政治思想の一断面：天平三年を中心として	長 洋一	82	1960	S35
359	一八六〇年代のドイツ労働運動と工場労働者（下）	小林 栄三郎	83	1960	S35
360	トルレ・ド・トンボ文書館所蔵「モンスーン」文書所収日本関係文書目録	箭内 健次	83	1960	S35
361	情越国公独孤羅の墓誌銘の考証：陝西省咸陽・底張湾の北周・情唐墓	岡崎 敬	83	1960	S35
362	統遼東馬市管見：兀良哈馬市の再開に就て	江嶋 寿雄	83	1960	S35
363	北宋の過税制度	幸 徹	83	1960	S35
364	楊炎の両税法の見居原則と銭数・銭納原則	日野 開三郎	84	1961	S36
365	原生期の織布：九州の組織痕土器を中心に（上）	鏡山 猛	84	1961	S36
366	僧尼令成立の歴史的背景	田村 圓澄	84	1961	S36
367	ロシア人の西シベリア征服と毛皮資源	三上 正利	84	1961	S36
368	ドイツ農民戦争における「過激派」の性格：農業労働者の分析を通して	前間 良爾	84	1961	S36
369	中世に於ける熊野信仰の発展	新城 常三	85	1961	S36
370	晋爵と宋爵：再び「劉宋の五等開国爵と貴族」について	越智 重明	85	1961	S36
371	アンティ・ベラム南部における奴隷制プランテーションの収益性について	服部 哲郎	85	1961	S36
372	豊前に於ける新羅系古瓦とその意義：九州発見朝鮮系古瓦の研究（一）	Oda Fujio	85	1961	S36
373	1870年代および80年代のドイツ労働運動の構造（上）	小林 栄三郎	86	1961	S36
374	原生期の織布（中）：九州の組織痕土器を中心に	鏡山 猛	86	1961	S36
375	雲南石寨山遺跡と銅鼓の問題	岡崎 敬	86	1961	S36
376	騎士団国家の起源（再論）	今来 陸郎	86	1961	S36
377	南宋時代の准浙塩鈔法	草野 靖	86	1961	S36
378	玄宗の平盧軍節度使育成と小高句麗国	日野 開三郎	87	1962	S37
379	熊野詣での衰頹	新城 常三	87	1962	S37
380	神宮寺の創建	田村 圓澄	87	1962	S37
381	所謂革命事件・天長節事件とその周辺	西尾 陽太郎	87	1962	S37
382	ポピュリズムの発展と通貨問題	古賀 邦子	87	1962	S37
383	一八七〇年代および八〇年代のドイツ労働運動の構造（中）	小林 栄三郎	88	1962	S37
384	分国系についての一考察	箭内 健次	88	1962	S37
385	六朝における喪服制上の二問題	越智 重明	88	1962	S37
386	中津藩の研究：福沢諭吉	檜垣 元吉	88	1962	S37
387	豊前細川藩の「借米」について	桑波田 興	88	1962	S37
388	玄宗の平盧軍節度使育成と小高句麗国（承前）	日野 開三郎	89	1962	S37
389	原生期の織布（下）：九州の組織痕土器を中心に	鏡山 猛	89	1962	S37

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
390	唐、張九齡の墳墓とその墓誌銘：広東省韶関市近郊の唐代壁画墓	岡崎 敬	89	1962	S37
391	宋代の地方区劃：管について	中村 治兵衛	89	1962	S37
392	五代の北面転運使について	室永 芳三	89	1962	S37
393	近世参詣に対する封建的規制	新城 常三	90	1963	S38
394	国家仏教の成立過程	田村 円澄	90	1963	S38
395	ゴシック古典様式カテドラルの成立とその背景：Chartres, Reims, Amiens を中心として (上)	森 洋	90	1963	S38
396	明末遼東の互市場	江嶋 寿雄	90	1963	S38
397	モロゾフストライキについて：労働者の意識の成長	倉崎 繁	90	1963	S38
398	安史の乱による唐の東北政策の後退と渤海の小高句麗国占領	日野 開三郎	91	1963	S38
399	南北朝時代の幹僮、雑役、雑使、雑任などについて	越智 重明	91	1963	S38
400	ゴシック古典様式カテドラルの成立とその背景：Chartres, Reims, Amiens を中心として (中)	森 洋	91	1963	S38
401	17世紀西シベリアの植民と農耕地開拓	三上 正利	91	1963	S38
402	江戸時代の遠賀川の水運：特にその機構について	野口 喜久雄	91	1963	S38
403	一八七〇年代および八〇年代のドイツ労働運動の構造 (下)	小林 栄三郎	92	1964	S39
404	弥生期の水田区劃について (上)	鏡山 猛	92	1964	S39
405	古代遷宮考	田村 円澄	92	1964	S39
406	アンティ・ベラム・南部における奴隷賃貸制について	服部 哲郎	92	1964	S39
407	北宋の巡検と保甲法	羽生 健一	92	1964	S39
408	渤海国の隆昌と小高句麗国の子国化	日野 開三郎	93	1964	S39
409	朱印船制度創設記事の一考察	箭内 健次	93	1964	S39
410	安岳第三号墳 (冬寿墓) の研究：その壁画と墓誌銘を中心として	岡崎 敬	93	1964	S39
411	ドイツ騎士団国家の終末	今来 陸郎	93	1964	S39
412	ルソーの政治思想とその基本的性格：〈自然状態〉の論理構造	西島 幸右	93	1964	S39
413	ゴシック古典様式カテドラルの成立とその背景：Chartres, Reims, Amiens を中心として (下の一)	森 洋	94	1965	S40
414	州大中正の制に関する諸問題	越智 重明	94	1965	S40
415	中世の駅制	新城 常三	94	1965	S40
416	明治初年における三治職制の府について	杉谷 昭	94	1965	S40
417	仏教伝来の史実と説話：津田左右吉氏の所論によせて	田村 円澄	95	1966	S41
418	革命前ロシアにおける経済地域区分研究：その概観と今日における評価について	小野 菊雄	95	1966	S41
419	ゴシック古典様式カテドラルの成立とその背景：Chartres, Reims, Amiens を中心として (下の二・完)	森 洋	95	1966	S41
420	弥生期の水田区劃について (中)	鏡山 猛	95	1966	S41
421	百済系単弁軒丸瓦考：九州発見朝鮮系古瓦の研究 (二)	小田 富士雄	95	1966	S41
422	小高句麗国の滅亡	日野 開三郎	96	1966	S41
423	再び唐代の郷について：望郷と耆老	中村 治兵衛	96	1966	S41
424	弥生期の水田区劃について (下)	鏡山 猛	96	1966	S41
425	ロシア第一国会と農民運動の性格	大畑 勝	96	1966	S41
426	第一次大戦前後のドイツにおける「新中間層」と労働運動 (一)	小林 栄三郎	97	1966	S41
427	梁陳時代の甲族層起家の官をめぐる	越智 重明	97	1966	S41
428	中世の北海道について	新城 常三	97	1966	S41
429	近世矢部村の研究	檜垣 元吉	97	1966	S41

『史淵』文献目録(昭和・平成)：  
昭和4(1929)年 第1号 ~ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
430	北宋の耆保について	羽生 健一	97	1966	S41
431	『金光明経』の受用と飛鳥仏教	田村 圓澄	98	1967	S42
432	南朝の清官と濁官	越智 重明	98	1967	S42
433	黒田長溥と筑前勤王派	西尾 陽太郎	98	1967	S42
434	小高句麗国の滅亡(承前)	日野 開三郎	98	1967	S42
435	宇佐使についての一考察	恵良 宏	98	1967	S42
436	エコール・デ・シャルトの業績	F・ジュオン・デ・ロン グレ、森 洋	99	1968	S43
437	スパファリのシベリア地図	三上 正利	99	1968	S43
438	福岡県飯塚市立岩遺跡発見の前漢鏡とその銘文	岡崎 敬	99	1968	S43
439	近世初頭における日本・メキシコ貿易の基調	箭内 健次	99	1968	S43
440	"PALLIUM"考：起源より教会法的制度化に至る迄	河井田 研朗	99	1968	S43
441	ミシュレ史学の地位	長 壽吉	100	1968	S43
442	The Establishment of State Buddhism in Japan	Tamura Encho	100	1968	S43
443	聖徳太子論考	長沼 賢海	100	1968	S43
444	ドイツ騎士団国家解体についての若干の問題	今来 陸郎	100	1968	S43
445	中世交通路の一考察	新城 常三	100	1968	S43
446	大名領国における糸割符制の変遷と商人の動向	藤野 保	100	1968	S43
447	佐賀支藩の蘭学について：小城藩の場合	杉本 勲	100	1968	S43
448	佐賀藩天保改革の問題点	木原 溥幸	100	1968	S43
449	日韓合併後の内田良平	西尾 陽太郎	100	1968	S43
450	累世同居の出現をめぐって	越智 重明	100	1968	S43
451	唐代埭程考	日野 開三郎	100	1968	S43
452	北宋沿邊五路に於ける保甲編排について	羽生 健一	100	1968	S43
453	明末遼東の互市場補遺	江嶋 壽雄	100	1968	S43
454	清代華北の都市の戸口に関する一考察	中村 治兵衛	100	1968	S43
455	共和末・帝政初期のローマ鉱山業の状態：イタリヤ及び西部所屬領における	馬場 典明	100	1968	S43
456	シャルトル司教フェルベールの一書簡の解釋の試み：十一世紀の"封建制"の解明に寄せて	森 洋	100	1968	S43
457	アンティ・ベラム南部奴隷制度の功罪をめぐる論争：レヴィジョニスト登場以後の展望	服部 哲郎	100	1968	S43
458	ブロンテル・オブライエンとアイルランド問題："Schoolmaster of Chartism"の研究	古賀 秀男	100	1968	S43
459	第一次大戦前後のドイツにおける「新中間層」と労働運動(二)	小林 栄三郎	100	1968	S43
460	「漢委奴國王」金印の測定	岡崎 敬	100	1968	S43
461	横穴式石室古墳における複室構造の形成	小田 富士雄	100	1968	S43
462	一六〇一七世紀の北極海沿岸航路：マンガゼヤ航海	三上 正利	100	1968	S43
463	ソ連地理学の現状をめぐっての議論：「文学新聞」紙上の論文を中心に	小野 菊雄	100	1968	S43
464	大宰府と観世音寺礎石について	鏡山 猛	101	1969	S44
465	小高句麗國の滅亡(三)	日野 開三郎	101	1969	S44
466	天聰年間における朝鮮の歳幣について	江嶋 壽雄	101	1969	S44
467	第一次大戦前後のドイツにおける「新中間層」と労働運動(III)	小林 栄三郎	101	1969	S44
468	唐末内庫の存在形態について	室永 芳三	101	1969	S44
469	宋代の脚店戸と唐代の接脚及び「うけうり」の慣行	日野 開三郎	102	1970	S45

『史淵』文献目録(昭和・平成)：  
昭和4(1929)年 第1号 ～ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
470	李容九の日韓合邦(聯邦)運動：資料的に	西尾 陽太郎	102	1970	S45
471	晋南朝の税制をめぐって：晋故事の税制を論じて「均政役」の解釈に及ぶ	越智 重明	102	1970	S45
472	ワシントン会議開催の前提についての覚書	白井 勝美	102	1970	S45
473	八世紀中葉寺院造営労働力の一考察：造石山寺所甲賀山作所	岡藤 良敬	102	1970	S45
474	天孫降臨説話と中臣・藤原氏	田村 圓澄	103	1971	S46
475	戦国時代の聚落	越智 重明	103	1971	S46
476	真木和泉守伝研究の一節：未公開の母・妻・娘宛書翰の紹介を通じて	山口 宗之	103	1971	S46
477	明治初年における医学および医療政策について：明治前記医学教育史序論	中野 健	103	1971	S46
478	一八四八年における「コルボラシオン」の語義	井手 伸雄	103	1971	S46
479	小高句麗国の領域と民族構成(上)	日野 開三郎	104	1971	S46
480	第一次大戦前後のドイツにおける「新中間層」と労働運動(四)	小林 栄三郎	104	1971	S46
481	共和政末・帝政初期の東部諸属領に於けるローマ鉱山業の状態	馬場 典明	104	1971	S46
482	院政と検非違使：その補任より見たる	満富 真理子	104	1971	S46
483	覆勤状について	川添 昭二	105/106	1971	S46
484	中世町割りと条坊遺制(上)	鏡山 猛	105/106	1971	S46
485	唐代の巫	中村 治兵衛	105/106	1971	S46
486	ストルイピン改革期における国会と農民：特にカデットの農業政策につ	大畑 勝	105/106	1971	S46
487	北一輝の辛亥革命に関する「電文集」と「報告書簡集」について：内田	西尾 陽太郎	105/106	1971	S46
488	古代形代馬考	小田 富士雄	105/106	1971	S46
489	咸宜園と洋学	杉本 勲	105/106	1971	S46
490	小高句麗国の領域と民族構成(下)	日野 開三郎	105/106	1971	S46
491	九州における幕藩領主支配の特質(二)：統一権力の九州支配と対応	藤野 保	107	1972	S47
492	聖サヴィヌス諸伝承の邦訳：サン・サヴァン修道院史研究Ⅰ	森 洋	107	1972	S47
493	北一輝の辛亥革命電文集について：内田家資料による(承前)	西尾 陽太郎	107	1972	S47
494	崇徳年間における朝鮮の歳幣について	江嶋 寿雄	108	1972	S47
495	アフガニスタン・カーブル市購入の一枚のローマ銀貨：ローマ貨幣の東方における波及に関する新資料	岡崎 敬	108	1972	S47
496	北魏の均田制をめぐって	越智 重明	108	1972	S47
497	小高句麗国の産業	日野 開三郎	108	1972	S47
498	宋代広徳軍祠山廟の牛祭について：宋代社会の一事例として	中村 治兵衛	109	1972	S47
499	中世町割りと条坊遺制(下)	鏡山 猛	109	1972	S47
500	小高句麗国の産業(二・完)	日野 開三郎	109	1972	S47
501	第一次世界大戦前後のドイツにおける「新中間層」と労働運動(五)	小林 栄三郎	109	1972	S47
502	客と部曲	越智 重明	110	1973	S48
503	《OPVS DOLIARE》考：帝政初・中期に於けるローマ工業と大土地所有性(其之一)	馬場 典明	110	1973	S48
504	肥前国佐嘉御領と別名	森本 正憲	110	1973	S48
505	五代・北宋における府州折氏について	畑地 正憲	110	1973	S48
506	シトー修道院「創立小史」(Exordium Parvum)邦訳：シトー修道院創立史の諸問題・Ⅰ	岸 ちづ子	110	1973	S48
507	群集墳形成の一視点	佐田 茂	110	1973	S48
508	鎮西特殊合議訴訟機関	川添 昭二	110	1973	S48
509	LES ÉTABLISSEMENTS DE SAINT LOUIS の邦訳(1)	森 洋	111	1974	S49

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
510	魏王朝と士人	越智 重明	111	1974	S49
511	明末、揚子江デルタ地帯における水利慣行の変質	川勝 守	111	1974	S49
512	北宋・遼間の貿易と歳贈とについて	畑地 正憲	111	1974	S49
513	真木和泉関係未刊史料研究：『壬戌癸亥志士口供』（二）	山口 宗之	111	1974	S49
514	人物埴輪に見える衣服の形式	佐田 茂	111	1974	S49
515	レメゾフの「シベリア地図帳（一七〇一年）」の第二一図	三上 正利	111	1974	S49
516	フランスにおける都市住民の土地所有（一）：問題の所在	野沢 秀樹	111	1974	S49
517	錦州占領：幣原外交の一考察	白井 勝美	112	1975	S50
518	行基と平城京造営	田村 圓澄	112	1975	S50
519	近世史料の基礎的研究：その2 『徳川加除封録』について	藤野 保	112	1975	S50
520	北山文化への一試論：朝山梵灯(師綱)を例として	川添 昭二	112	1975	S50
521	近世関所及び番所の研究(二)：東海道箱根関所を中心として(1)	丸山 雍成	112	1975	S50
522	薩摩藩における唐物仕法体制の確立過程	上原 兼善	112	1975	S50
523	文化朋党事件後の薩摩藩	黒田 安雄	112	1975	S50
524	春秋時代の兄弟集団	越智 重明	112	1975	S50
525	明代里甲編成の変質過程：小山正明氏の「析戸の意義」論の批判	川勝 守	112	1975	S50
526	湖陰雜稿と鄭士龍	長 正統	112	1975	S50
527	宋代行政機関としての軍について：その州格化をめぐる	畑地 正憲	112	1975	S50
528	フランス王のFideles(八八八-九二九)	森 洋	112	1975	S50
529	ミュンヘン革命とドイツ・ファシズムの発生：ファシズム理論によせて	黒川 康	112	1975	S50
530	北九州市・福岡県(豊前)における「古鏡」発見地表稿：九州大学文学部考古学研究室制作	岡崎 敬	112	1975	S50
531	会寧五洞の土器をめぐる問題：北部朝鮮無文土器編年のために	西谷 正	112	1975	S50
532	竪穴系横口式石室の一側面	佐田 茂	112	1975	S50
533	地理学におけるシステム概念覚書	野沢 秀樹	112	1975	S50
534	「地理的環境」の概念をめぐる：特にヴェ・ア・アヌーチンの見解を中心に	小野 菊雄	112	1975	S50
535	高一族と室町幕府	森 茂暁	113	1976	S51
536	薩摩藩における唐物仕法の展開：会社貿易への浸透過程	上原 兼善	113	1976	S51
537	藉と賦	越智 重明	113	1976	S51
538	北宋慶暦年間の官売法下末塩鈔制度の混乱について	幸 徹	113	1976	S51
539	初期清朝国家における江南統治政策の展開	川勝 守	113	1976	S51
540	シトー修道院創立と史料：シトー修道院創立史の諸問題II	岸 ちづ子	113	1976	S51
541	アンシアン・レジームの犯罪社会学的研究：最近の諸研究について	志垣 嘉夫	113	1976	S51
542	石戈論	下條 信行	113	1976	S51
543	室町幕府執事制度に就いて：仁木氏を素材として	森 茂暁	114	1977	S52
544	文化・文政期長崎商法拡張をめぐる薩摩藩の画策	黒田 安雄	114	1977	S52
545	東方会の組織と政策：社会大衆党との合同問題の周辺	有馬 学	114	1977	S52
546	漢魏晋南朝における「王法」について	神矢 法子	114	1977	S52
547	清末、江南における租棧・業戸・佃戸関係：九州大学所蔵江蘇省呉県馮林一棧関係簿冊について	川勝 守	114	1977	S52
548	バイエルンにおける革命と反革命：一九二二年のナチス党	黒川 康	114	1977	S52
549	九州における大陸系磨製石器の生成と展開：石器の組合・形式の連関性と文化圏の設定	下條 信行	114	1977	S52

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
550	竜造寺家臣団の構成とその特質(二)：天正八年着到帳の分析を中心として	藤野 保	115	1978	S53
551	参勤交代制の研究(三)：九州諸藩を中心として(2)	丸山 雍成	115	1978	S53
552	長崎会所天保改革期の諸問題：鎖国体制崩壊過程の一側面	中村 質	115	1978	S53
553	倭学訳官書簡よりみた易地行聘交渉	長 正統	115	1978	S53
554	パリ大学形成期のFacultas(一二〇〇～一二五〇)	森 洋	115	1978	S53
555	美松里洞窟出土の無文土器：西部朝鮮無文土器編年のために(二)	西谷 正	115	1978	S53
556	福岡市CBDの構造と変動	野澤 秀樹	115	1978	S53
557	古代日朝交渉史序説：大伴氏主導より蘇我氏主導へ	田村 圓澄	116	1979	S54
558	建武政権の法制：内閣文庫本「建武記」を素材として	森 茂暁	116	1979	S54
559	佐賀藩家臣団の構造(三)	黒田 安雄	116	1979	S54
560	晋南朝の秀才・孝廉	越智 重明	116	1979	S54
561	独立協会の自由民権思想について	池川 英勝	116	1979	S54
562	パリ大学における托鉢修道会問題：ドミニコ会の大学進出を中心に	大嶋 誠	116	1979	S54
563	南北市糶考：弥生時代対馬船載朝鮮製青銅器の意味	下條 信行	116	1979	S54
564	魏晋時代の四征将軍と都督	越智 重明	117	1980	S55
565	李泰俊作品論：長篇作品を中心として	三枝 壽勝	117	1980	S55
566	平安末・鎌倉期の大隅国衙領について	田中 健二	117	1980	S55
567	所謂広田型貝輪の細分について	木村 幾多郎	117	1980	S55
568	須恵器の叩き目	横山 浩一	117	1980	S55
569	パリ大学における托鉢修道会問題(承前)：その制度史的考察	大嶋 誠	117	1980	S55
570	デュルケム派社会(形態)学と人文地理学	野澤 秀樹	117	1980	S55
571	いわゆる長崎会所五冊物の諸本：鎖国崩壊期の貿易会計史料について	中村 質	118	1981	S56
572	戦争期の東方会	有馬 学	118	1981	S56
573	文化・文政期における秋月藩政の展開：文化八年の政変と財政経済政策の特質	柴多 一雄	118	1981	S56
574	六朝期における蚕の漢化について	川本 芳昭	118	1981	S56
575	解放後の李泰俊	三枝 壽勝	118	1981	S56
576	シャルル・ル・ショーヴ：ヴェルダン条約前史：一	森 洋	118	1981	S56
577	四国における「古鏡」発見地名表	岡崎 敬	118	1981	S56
578	封建都市と陸上交通：交通機能を中心に	丸山 雍成	119	1982	S57
579	Charles le chauve : 840 : Pr�histoire du trait� de Verdun : I et II	Mori Hiroshi	119	1982	S57
580	無産政党成立期における地方の動向：福岡県地方の分析	小西 秀隆	119	1982	S57
581	明末清初における打行と訪行：旧中国社会における無頼の諸史料	川勝 守	119	1982	S57
582	内閣文庫所蔵「朝鮮国図」およびその諸本についての研究	長 正統	119	1982	S57
583	シャルル・ル・ショーヴ、八四〇年：ヴェルダン条約前史：二	森 洋	119	1982	S57
584	咸鏡南道の無文土器：北部朝鮮無文土器編年のために(2)	西谷 正	119	1982	S57
585	山村問題研究の方法と課題	岡橋 秀典	119	1982	S57
586	戦時労働政策の思想：昭和研究会労働問題研究会を中心に	有馬 学	120	1983	S58
587	Le domaine ducal sous les premiers dues cap�tiens (1016-1192) : Etude sur la formation de la « p�t� » de Ch�tillon-sur-Seine	Matsuda Takafumi	120	1983	S58
588	九州民憲党論(一九二五～一九二六)：全国的無産政党组织問題をめぐって	小西 秀隆	120	1983	S58
589	小倉藩の産物会所と日田金	楠本 美智子	120	1983	S58
590	魏晋南朝の御史中丞	越智 重明	120	1983	S58
591	朝鮮族譜と始祖伝承(上)	松原 孝俊	120	1983	S58

『史淵』文献目録(昭和・平成) :  
昭和4(1929)年 第1号 ~ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
592	初期カペー家ブルゴーニュ侯(1016-1192)のdomaine : シャティヨン=シュル=セーヌの«pôté»形成をめぐって	松田 高史	120	1983	S58
593	古墳時代初頭前後の筑前地方	田崎 博之	120	1983	S58
594	中世後期の博多と大内氏	佐伯 弘次	121	1984	S59
595	Le domaine d'Eudes II, duc de Bourgogne : Le procès dit de Moret (1153) et ses données	Matsuda Takafumi	121	1984	S59
596	藩債処分と日田・千原家	楠本 美智子	121	1984	S59
597	漢代における司隸校尉	富田 健之	121	1984	S59
598	朝鮮族譜と始祖伝承(中)	松原 孝俊	121	1984	S59
599	ブルゴーニュ侯ウード二世の直領(domaine) : いわゆるモレ訴訟(1153年)をめぐって	松田 高史	121	1984	S59
600	北部九州における弥生時代終末前後の鏡について	田崎 博之	121	1984	S59
601	インドネシアにおける近年の国内人口移動と都市化の動向について : 途上国の都市・農村関係に関する予備考察	熊谷 圭知	121	1984	S59
602	大内氏の博多支配機構	佐伯 弘次	122	1985	S60
603	Le chapitre cathédral de Paris en voie de formation (IX <sup>e</sup> -XII <sup>e</sup> siècles) : une analyse des chartes des évêques et du chapitre	Okazaki Atsushi	122	1985	S60
604	佐賀藩における宝暦・天明期農政の意義	柴多 一雄	122	1985	S60
605	福岡藩の夫役に関する一考察	楠本 美智子	122	1985	S60
606	万暦三十年代における沈一貫の政治と党争	城井 隆志	122	1985	S60
607	パリ司教座聖堂参事会の形成(九-十二世紀) : 司教・参事会文書の検討	岡崎 敦	122	1985	S60
608	須玖式土器の再検討	田崎 博之	122	1985	S60
609	フランス地理学とアナール学派	野澤 秀樹	122	1985	S60
610	古代日本の本主について	坂上 康俊	123	1986	S61
611	張赫宙の初期長篇作品について : <무지개> (虹), <三曲線>, <黎明期>を中心に	白川 豊	123	1986	S61
612	中世地方禅院の発展に関する一考察 : 薩摩野田感応寺の場合	上田 純一	123	1986	S61
613	パリ司教座教会の文書局(9-12世紀)	岡崎 敦	123	1986	S61
614	佐賀藩家臣団編成の諸段階	高野 信治	123	1986	S61
615	漢時代の市をめぐって	越智 重明	123	1986	S61
616	一九世紀、蔡経畬堂所有地の小作関係 : 京都大学人文科学研究所蔵『租簿』『入厩』『租教』について	川勝 守	123	1986	S61
617	豊臣家臣団とキリシタン : リスボンの日本屏風文書を中心に	中村 質	124	1987	S62
618	板付I式甕形土器の成立とその背景	藤尾 慎一郎	124	1987	S62
619	張赫宙の日本語小説考(1930-1945年)	白川 豊	124	1987	S62
620	明代の六科給事中の任用について	城井 隆志	124	1987	S62
621	近代都市形成期における北部九州都市	水内 俊雄	124	1987	S62
622	Saint-Maur-des-Fossés のための二通のパリ司教文書 : 文書形式学的分析による偽文書推定の試み	岡崎 敦	124	1987	S62
623	イギリス・オランダ商館の貿易活動と琉球・薩摩 : 十七世紀初期の動向	真栄平 房昭	125	1988	S63
624	カロリング初期における司教の出自(上)	梅津 教孝	125	1988	S63
625	近世中期地方知行(給人知行)に関する一考察 : 佐賀藩「切地」・「上支配」政策の分析を中心に	高野 信治	125	1988	S63

『史淵』文献目録(昭和・平成)：  
昭和4(1929)年 第1号 ～ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
626	田所輝明と満州事変期の社会大衆党：一九三〇年代における「運動」と「統合」(一)	有馬 学	125	1988	S63
627	清末、江南の一租界における徴税・小作関係(一)：九州大学所蔵江蘇省長州馮林一棧関係簿冊について	川勝 守	125	1988	S63
628	筑紫君磐井の時代の東アジア	西谷 正	125	1988	S63
629	生活様式論をめぐる諸問題：生活様式概念の活性化のために	野澤 秀樹	125	1988	S63
630	讓状と「日記の家」：記録讓状の分析と勸修寺流藤原氏	松園 斉	126	1989	H1
631	Q-分析と地理学：地域の多様性・局所性への視点	水野 勲	126	1989	H1
632	劉林遺跡墓制考	渡辺 芳郎	126	1989	H1
633	肥後宇土藩の財政について	楠本 美智子	126	1989	H1
634	カロリング初期における司教の出自(下)	梅津 教孝	126	1989	H1
635	南朝の官位と家格をめぐる諸問題	野田 俊昭	126	1989	H1
636	張赫宙作戯曲〈春香伝〉とその上演(1938年)をめぐる	白川 豊	126	1989	H1
637	中世神社の記録について：「日記の家」の視点から	松園 斉	127	1990	H2
638	シャルルマーニュ期における司教の選出と叙階：ミュンスター司教リウドゲルスに関する史料を中心に	梅津 教孝	127	1990	H2
639	ジャン・ブリュン人文地理学の方法：ポール・ヴィダル＝ド＝ラ＝ブラーシュとの比較において	野澤 秀樹	127	1990	H2
640	村の生活と年中行事：肥前唐津藩の村々研究ノート	宮崎 克則	127	1990	H2
641	南朝の郡太守の班位と清濁	野田 俊昭	127	1990	H2
642	美松里型土器とその文化について：中国・東北考古学にふれて	西谷 正	127	1990	H2
643	『令集解』に引用された唐の格・格後勅について	坂上 康俊	128	1991	H3
644	フランス地理学における生態学的思考の展開：マクシミリアン・ソール(1880-1962)の場合	野澤 秀樹	128	1991	H3
645	明治の地方政治家：その「上陳書」にみる思想と行動	丸山 雍成	128	1991	H3
646	8世紀前半のバイエルンにおける教会組織の整備	梅津 教孝	128	1991	H3
647	侯馬盟書「口」・「口」の字釈とその関連問題："趙「稷」・「范」氏"なる字釈による時期決定の検討を基礎として	平勢 隆郎	128	1991	H3
648	李朝初期漢江の水站制度について	六反田 豊	128	1991	H3
649	仰韶文化の集落構造	岡村 秀典	128	1991	H3
650	一七世紀前半期における地方知行の存在と「走り者」頻出の社会状況	宮崎 克則	129	1992	H4
651	大汶口遺跡墓制考：階層的変異を中心として	渡辺 芳郎	129	1992	H4
652	長州出兵をめぐる政治情況：福岡藩の長州周旋活動を中心として	梶原 良則	129	1992	H4
653	ルイ14世治世期(1659-1715)におけるバステュー監獄の機能	正本 忍	129	1992	H4
654	日中戦争と社会大衆党：一九三〇年代における「運動」と「統合」(二)	有馬 学	129	1992	H4
655	中国近世都市漢口と『漢口叢談』	川勝 守	129	1992	H4
656	新羅鐘銘の再検討(1)：敦賀市・常宮神社所蔵の「鐘の記」と菁州蓮池寺鐘	浜田 耕策	129	1992	H4
657	室町時代における大内氏と少弐氏：蜷川家文書「大内教弘条書案」の検討	佐伯 弘次	130	1993	H5
658	折衷土器の製作者：韓国勸島遺跡における弥生土器と無文土器の折衷を事例として	中園 聡	130	1993	H5
659	地域文化・歴史の再解釈：九州の事例を中心として	丸山 雍成	130	1993	H5
660	「領域性」に関する研究ノート	遠城 明雄	130	1993	H5



『史淵』文献目録(昭和・平成)：  
昭和4(1929)年 第1号 ～ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
661	一九二〇年代中期の小作争議と農民組合の組織構造：福岡県朝倉郡大福村農民組合を素材として	木永 勝也	130	1993	H5
662	六朝時代の印綬冠服規定に関する基礎的考察：『宋書』札志にみえる規定を中心にして	小林 聡	130	1993	H5
663	李朝初期における国家祭祀：『国朝五礼儀』吉礼の特性	桑野 栄治	130	1993	H5
664	九州大学文学部蔵敦煌文書「新大徳造窟簷計料」探微	馬 徳、坂上 康俊	131	1994	H6
665	福岡県初期農民運動覚え書き：小作人組合と初期日本農民組合	木永 勝也	131	1994	H6
666	ルー商会文書の為替手形：18世紀金融技術の基礎研究	深沢 克己	131	1994	H6
667	李朝初期における承文院の設立とその機能	桑野 栄治	131	1994	H6
668	カミーユ・ヴァローの地理学：覚書	野澤 秀樹	131	1994	H6
669	加耶古墳の発掘	西谷 正	131	1994	H6
670	古代・中世における暦道の技術水準について：朝廷の暦制定権の前提	細井 浩志	132	1995	H7
671	18世紀のフランス=レヴァント貿易と国際金融(上)：ルー商会文書の為替手形	深沢 克己	132	1995	H7
672	近世における日本・中国・東南アジア間の三角貿易とムスリム	中村 質	132	1995	H7
673	蚕の問題を中心としてみた六朝期段階における各地域毎の状況について	川本 芳昭	132	1995	H7
674	李朝後期邑誌編纂と孝子・烈女：十七・八世紀全羅道を中心に	山内 民博	132	1995	H7
675	華北新石器時代の墓制上にみられる集団構造(一)	宮本 一夫	132	1995	H7
676	中世都市博多と「石城管事」宗金	佐伯 弘次	133	1996	H8
677	18世紀のフランス=レヴァント貿易と国際金融(下)：ルー商会文書の為替手形	深沢 克己	133	1996	H8
678	日本古代国家による天文技術の管理について	細井 浩志	133	1996	H8
679	弥生時代中期土器様式の併行関係：須玖II式期の九州・瀬戸内	中園 聡	133	1996	H8
680	明代軍政・辺防書の研究・序説	川勝 守	133	1996	H8
681	Irshād al-Zirā'aにおける作物栽培法各論(1)	清水 宏祐	133	1996	H8
682	廃藩置県後の国際関係と朝鮮政策	諸 洪一	133	1996	H8
683	薩摩藩における土風の変化について：『薩摩州土風伝』を素材にして	安藤 保	134	1997	H9
684	Irshād al-Zirā'aにおける作物栽培法各論(2)	清水 宏祐	134	1997	H9
685	ローマ共和政中期の政務職関連諸法：アエリウス・フフィウス法の再検討	吉浦 麻子	134	1997	H9
686	『続日本紀』における自然記事：祥瑞・天文記事より見た『続紀』の史料的性格に関する一試論	細井 浩志	134	1997	H9
687	清代十八世紀の水害とその対策：乾隆五十三年荊州大洪水をめぐって	宮寄 洋一	134	1997	H9
688	科田法の再検討：土地制度史からみたその制定の意義をめぐる一試論	六反田 豊	134	1997	H9
689	高句麗王陵コンプレックス	西谷 正	134	1997	H9
690	大宝令復原考証三題	坂上 康俊	135	1998	H10
691	アッパース朝期法学史料における土地のラカバと用益権	清水 和裕	135	1998	H10
692	近世長崎銅吹所について	岩崎 義則	135	1998	H10
693	清末民国初、江南における租棧・業戸・佃戸関係再論：九州大学所蔵、江蘇省呉・長洲県馮林一棧関係簿冊の再検討・補遺	川勝 守	135	1998	H10
694	渤海国王の即位と唐の册封	濱田 耕策	135	1998	H10
695	「サン=ベルナル書簡集」<corpus epistolarum>に関して：新しいサン=ベルナル像を求めて(1)	中軽米 明子	135	1998	H10
696	古式遼寧式銅劍の地域性とその社会	宮本 一夫	135	1998	H10

『史淵』文献目録(昭和・平成)：  
昭和4(1929)年 第1号 ~ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
697	民族問題を中心としてみた五胡十六国南北朝期段階における四川地域の状況について	川本 芳昭	136	1999	H11
698	オスマン朝期カイロの一参詣書写本：シュアイビーの Kitāb yashtamil 'alā Dhikr man dufina bi-Misrwa-Qāhira min al-Muhaddithīn wa-al-Awliyā' wa-al-Rijāl wa-al-Nisā をめぐって	大稔 哲也	136	1999	H11
699	朝鮮成宗代の漕運政策論議：私船漕運論を中心として（上）	六反田 豊	136	1999	H11
700	「サン＝ベルナル書簡集」《corpus epistolarum》に関して：新しいサン＝ベルナル像を求めて（二）	中軽米 明子	136	1999	H11
701	享保期長崎会所役人の大坂出役と御用銅代の大坂送銀	岩崎 義則	136	1999	H11
702	室町期の博多商人宗金と東アジア	佐伯 弘次	136	1999	H11
703	高麗考古学の諸問題	西谷 正	136	1999	H11
704	仁平三年東大寺諸荘園文書目録の基礎的考察	森 哲也	137	2000	H12
705	シュレイマニエ図書館、ベルリン国立図書館所蔵のイスラム農書写本について	清水 宏祐	137	2000	H12
706	史料紹介・宇都宮東太日記（一）	安藤 保	137	2000	H12
707	嘉靖朝における鎮守宦官裁革について	野田 徹	137	2000	H12
708	朝鮮成宗代の漕運政策論議：私船漕運論を中心として（下）	六反田 豊	137	2000	H12
709	ドイツ領邦絶対主義形成過程における中間的諸権力：領邦都市マインツの場合（上）	神寶 秀夫	137	2000	H12
710	彩画鏡の変遷とその意義	宮本 一夫	137	2000	H12
711	発日勅・奏抄事項と論奏事項	坂上 康俊	138	2001	H13
712	参詣書と死者の街からみたコプトとムスリム	大稔 哲也	138	2001	H13
713	写本に見える観世音寺文書について	森 哲也	138	2001	H13
714	顔之推のパーソナリティと価値意識について	川本 芳昭	138	2001	H13
715	新羅人の渡日動向：七世紀の事例	濱田 耕策	138	2001	H13
716	李朝考古学の諸問題	西谷 正	138	2001	H13
717	ドイツ領邦絶対主義形成過程における中間的諸権力：領邦都市マインツの場合(中-一)	神寶 秀夫	138	2001	H13
718	何卒御鎮座地に御選定相成度…：明治神宮の候補地に映る東京	山口 輝臣	139	2002	H14
719	『大鏡』法成寺諸堂巡覽にみる大殿道長	末松 剛	139	2002	H14
720	北宋における商業流通の地域構造：『宋会要輯稿』所収熙寧十年商税統計を中心として	後藤 久勝	139	2002	H14
721	対馬宗家文庫所在内賜本『陣法』について	六反田 豊	139	2002	H14
722	ドイツ領邦絶対主義形成過程における中間的諸権力：領邦都市マインツの場合(中-二)	神寶 秀夫	139	2002	H14
723	隴山地域青銅器文化の変遷とその特徴	宮本 一夫	139	2002	H14
724	小説『四万十川』にみる高度経済成長	高木 彰彦	139	2002	H14
725	文政・天保初期の薩摩藩と石本家(一)	安藤 保	140	2003	H15
726	ペルシア語地理書Hudud al-'Alamにおけるhududの概念	清水 宏祐	140	2003	H15
727	室町後期の博多商人道安と東アジア	佐伯 弘次	140	2003	H15
728	永楽年間の日明朝貢貿易	中島 楽章	140	2003	H15
729	渤海の遼東地域の領有問題をめぐって：拂涅・越喜・鉄利等靺鞨の故地と関連して	李 美子	140	2003	H15
730	古墳時代における須恵器の生産単位について：須恵器に記されたヘラ記号の目的と関連して	岡田 裕之	140	2003	H15

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
731	ドイツ領邦絶対主義形成過程における中間的諸権力：領邦都市マインツの場合(下)(完)	神寶 秀夫	140	2003	H15
732	一九三〇年代の都市中小小売商：福岡県の場合	遠城 明雄	140	2003	H15
733	九州大学文学部所蔵「敦煌文書」の来歴	坂上 康俊	141	2004	H16
734	近代都市の屎尿問題：都市-農村関係への一視点	遠城 明雄	141	2004	H16
735	愛息の徴兵に立ち向かう福沢諭吉	山口 輝臣	141	2004	H16
736	エジプト『参詣の書』と死者の街から見たタサウフ	大穂 哲也	141	2004	H16
737	隋書倭国伝と日本書紀推古紀の記述をめぐって：遣隋使覚書	川本 芳昭	141	2004	H16
738	高麗における元の站赤：ルート上の比定を中心に	森平 雅彦	141	2004	H16
739	アベラール/エロイーズ往復書簡集の真正性をめぐる諸問題	岡崎 敦	141	2004	H16
740	古墳時代後期の地域編成：京都平野・宗像地域における古墳の分布様相から	岡田 裕之	141	2004	H16
741	石本平兵衛と御勘定所御用達	安藤 保	142	2005	H17
742	破鏡の伝世と副葬：穿孔事例の観察から	辻田 淳一郎	142	2005	H17
743	ポルトガル人の日本初来航と東アジア海域交易	中島 楽章	142	2005	H17
744	16世紀フランスの地方都市エリート：リヨンの都市参事会と政治秩序	小山 啓子	142	2005	H17
745	百濟紀年考	濱田 耕策	142	2005	H17
746	ラトヴィヤ・ソヴェト政権と「世界革命」(1918年秋～1919年春)：リュトヘルスとインタナショナル(続1)	山内 昭人	142	2005	H17
747	サムアーニー著 Kitab al-Ansab 中に見える地名ニスバについて	西村 淳一	142	2005	H17
748	雑誌『改造』にみられる「地政学」の記述について	高木 彰彦	142	2005	H17
749	1970年代末から80年代初頭の中国地理学会における人地関係論の再評価とその背景について	阿部 康久	142	2005	H17
750	竹岡勝也の肖像(上)	山口 輝臣	143	2006	H18
751	近年の中国地理学会における人地関係論の動向	阿部 康久	143	2006	H18
752	イスタフリー著アラビア語地理書『諸道と諸国の書』とそのペルシア語訳の比較研究	西村 淳一	143	2006	H18
753	倭国における対外交渉の変遷について：中華意識の形成と大宰府の成立との関連から見た	川本 芳昭	143	2006	H18
754	中世末期フランス王の文書管理：「文書の宝物庫」をめぐって	岡崎 敦	143	2006	H18
755	朱子学の高麗伝来と対元関係(その一)：安珣朱子学書将來說の再検討	森平 雅彦	143	2006	H18
756	華北新石器時代の墓制上にみられる集団構造(二)：山東新石器時代の階層表現と礼制の起源	宮本 一夫	143	2006	H18
757	『マインツ市平和法典』(D)(Das Friedensbuch der Stadt Mainz(D))：一四三七～一四四四年)訳・註釈(一)	神寶 秀夫	143	2006	H18
758	「都市下層社会」をめぐる表象と実践：地方都市における諸相	遠城 明雄	143	2006	H18
759	竹岡勝也の肖像(中)	山口 輝臣	144	2007	H19
760	古墳時代前期における鏡の副葬と伝世の論理：北部九州地域を対象として	辻田 淳一郎	144	2007	H19
761	朝鮮前期における向化倭人	松尾 弘毅	144	2007	H19
762	初期コミンテルンとシベリア・極東	山内 昭人	144	2007	H19
763	十六世紀末の福建-フィリピン-九州貿易	中島 楽章	144	2007	H19
764	西欧中世の私文書(10-13世紀)	トック ブノワ=ミシェル、岡崎 敦	144	2007	H19
765	牒と咨のあいだ：高麗王と元中書省の往復文書	森平 雅彦	144	2007	H19
766	カイセリにおける商業空間の変貌：史料としての映像資料	清水 宏祐	144	2007	H19

『史淵』文献目録(昭和・平成)：  
昭和4(1929)年 第1号 ～ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
767	福岡市都心部における近年の人口回復に関するノート	梶田 真	144	2007	H19
768	初期コミンテルンとアムステルダム・ニューヨーク・メキシコシティ (上)	山内 昭人	145	2008	H20
769	幕末平戸藩における隠居の表助成について：松浦熙「亀岡随筆」の分析より	岩崎 義則	145	2008	H20
770	竹岡勝也の肖像 (下)	山口 輝臣	145	2008	H20
771	ベルリン国立図書館所蔵・ペルシア語農書写本の断片について	清水 宏祐	145	2008	H20
772	魏晋南朝の世界秩序と北朝隋唐の世界秩序	川本 芳昭	145	2008	H20
773	新羅の遣唐使：上代末期と中代の派遣回数	濱田 耕策	145	2008	H20
774	遼東の遼寧式銅剣から弥生の年代を考える	宮本 一夫	145	2008	H20
775	中世から近世への移行期における都市統治の構造と機能：帝国自由都市マインツの都市参事会統治を中心に	神寶 秀夫	145	2008	H20
776	明治後期の都市社会の一断面	遠城 明雄	145	2008	H20
777	日本に船載された唐令の年次比定について	坂上 康俊	146	2009	H21
778	日本宛外交文書からみた大モンゴル国の文書形式の展開：冒頭定型句の過渡期的表現を中心に	船田 善之	146	2009	H21
779	南北朝時代の博多警固番役	佐伯 弘次	146	2009	H21
780	北部九州における竪穴式石槨の出現	辻田 淳一郎	146	2009	H21
781	ポルトガル人日本発来航再論	中島 楽章	146	2009	H21
782	西欧中世における記憶の管理とアーカイヴズ：パリ司教座教会のあるカルチュレールをめぐる(Liber Niger)	岡崎 敦	146	2009	H21
783	現代日本語訳『新羅聖徳大王神鍾之銘』	濱田 耕策	146	2009	H21
784	初期コミンテルンとアムステルダム・ニューヨーク・メキシコシティ (下)	山内 昭人	146	2009	H21
785	中世イスラーム世界の黒人奴隷と白人奴隷：〈奴隷購入の書〉を通して	清水 和裕	146	2009	H21
786	雑誌『地政学』にみる日本の地政学の特徴	高木 彰彦	146	2009	H21
787	天聖令藍本唐開元二十五年令説再論	坂上 康俊	147	2010	H22
788	中国川西高原・洱海系青銅器の変遷	宮本 一夫	147	2010	H22
789	応永の外寇と東アジア	佐伯 弘次	147	2010	H22
790	北部九州の前期古墳における 竪穴式石槨と葬送儀礼	辻田 淳一郎	147	2010	H22
791	捕鯨業者井元弥七左衛門と平戸藩：井元家文書の伝来とその分析	岩崎 義則	147	2010	H22
792	スタンレー・ボッグスとエルサルバドル共和国の考古学 / 文化遺産の保護と活用のための論理構築にむけて	村野 正景	147	2010	H22
793	遼金における正統観をめぐる：北魏の場合との比較	川本 芳昭	147	2010	H22
794	The Early Comintern in Amsterdam, New York and Mexico City	山内 昭人	147	2010	H22
795	全羅道沿海における宋使船の航路：『高麗図経』所載の事例	森平 雅彦	147	2010	H22
796	教会訴訟外裁治権の形成 (12世紀)：パリ司教文書の分析	岡崎 敦	147	2010	H22
797	朝鮮中宗代後半における僧徒管理体制の再構築：号牌の発給を中心として	押川 信久	147	2010	H22
798	再び『宰相たちの歴史』について：写本と刊本の間	清水 宏祐	147	2010	H22
799	『マインツ市平和法典』(D) (Das Friedensbuch der Stadt Mainz (D)) (一四三七～四四年)〔訳・註釈〕(二)	神寶 秀夫	147	2010	H22
800	近代都市と伝染病 / 門司港におけるコレラ流行	遠城 明雄	147	2010	H22
801	10世紀イラクのアブー・イスハーク・イブラーヒーム 文書集にみるアフド文書様式	清水 和裕	147	2010	H22

『史淵』文献目録(昭和・平成)：  
昭和4(1929)年 第1号 ～ 平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
802	第45回衆議院総選挙結果の 地理的特徴について	高木 彰彦	147	2010	H22
803	銃筒から仏郎機銃へ：十四～十六世紀の東アジア海域と火器	中島 楽章	148	2011	H23
804	初期横穴式石室における連接石棺とその意義	辻田 淳一郎	148	2011	H23
805	在米ロシア人移民労働運動史研究ノート(1)	山内 昭人	148	2011	H23
806	朱子学の高麗伝来と対元関係(その二)：初期段階における禿魯花・ケシク制度との接点	森平 雅彦	148	2011	H23
807	サバラーンの生涯	清水 宏祐	148	2011	H23
808	地方都市の政治状況に関する研究ノート：一八八九年～一九一二年の仙台市	遠城 明雄	148	2011	H23
809	中世都市博多の総鎮守と筥崎宮	佐伯 弘次	149	2012	H24
810	楽浪土器の成立と拡散：花盆形土器を中心として	宮本 一夫	149	2012	H24
811	天皇家の宗教を考える：明治・大正・昭和	山口 輝臣	149	2012	H24
812	在米ロシア人移民労働運動史研究ノート (2)	山内 昭人	149	2012	H24
813	倭の五王の自称と東アジアの国際情勢	川本 芳昭	149	2012	H24
814	新羅の東・西津と交易体制	濱田 耕策	149	2012	H24
815	紙の伝播と使用をめぐる諸問題	清水 和裕	149	2012	H24
816	『マインツ市平和法典』(D) (Das Friedensbuch der Stadt Mainz (D))：(一四三七～一四四四年) 訳・註釈(三) 完	神寶 秀夫	149	2012	H24
817	均田制・班田収授制の比較研究と天聖令	坂上 康俊	150	2013	H25
818	朝鮮後期における漢江舟運の運航実例から：「朝鮮半島の水環境とヒトの暮らし」に関する予備的考察(1)	森平 雅彦	150	2013	H25
819	五島灘・角力灘海域を舞台とした一八～一九世紀における潜伏キリシタンの移住について	岩崎 義則	150	2013	H25
820	古墳時代中期における同型鏡群の系譜と製作技術	辻田 淳一郎	150	2013	H25
821	ゴーレス再考	中島 楽章	150	2013	H25
822	パリにおける教会非訟事項裁治権と司教代理判事制度の生成(13世紀はじめ)	岡崎 敦	150	2013	H25
823	明治期の地方都市における選挙と地域社会：福岡市の地方政治状況に関する覚書	遠城 明雄	150	2013	H25
824	在米ロシア人移民労働運動史研究ノート (3)	山内 昭人	150	2013	H25
825	中東湾岸君主国における議会政治の展開	石黒 大岳	150	2013	H25
826	前近代における所謂中華帝国の構造についての覚書：北魏と元・遼、および漢との比較	川本 芳昭	151	2014	H26
827	契丹における中原王朝との婚姻に基づいた外交政策に対する認識について	藤野 月子	151	2014	H26
828	朝鮮後期における漢江舟運の運航実例から：「朝鮮半島の水環境とヒトの暮らし」に関する予備的考察(2)	森平 雅彦	151	2014	H26
829	沖縄出土滑石混入系土器からみた東シナ海の対外交流	宮本 一夫	151	2014	H26
830	12世紀北フランスにおける私的な法行為の認証について	岡崎 敦	151	2014	H26
831	欧米地政学の最近の展開：フリント著『地政学入門』を中心に	高木 彰彦	151	2014	H26
832	対馬市における韓国との国際交流および地域活性化について：長崎県対馬市の「対馬アヒラン祭」を事例として	申 英根	151	2014	H26
833	安政五年平戸城「年中祭式帳」について：隠居大名が創出した城中祭祀素描	岩崎 義則	152	2015	H27
834	哲学者による維新：戦後史学史のなかの上山春平	山口 輝臣	152	2015	H27
835	同型鏡群の鈕孔製作技術：画文帯環状乳神獸鏡Aを中心に	辻田 淳一郎	152	2015	H27

『史淵』文献目録(昭和・平成)：  
昭和4(1929)年 第1号～平成31(2019)年 第156輯

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
836	最初のポルトガル系東アジア図：フランシスコ・ロドリゲスの地図	中島 楽章	152	2015	H27
837	カナダ共産党創設とコミンテルン・パンアメリカン・エイジェンシー	山内 昭人	152	2015	H27
838	『東文選』と崔致遠の遺文	濱田 耕策	152	2015	H27
839	オスマン帝国タンズィマート期(1839-1876年)における歴史教科書	小笠原 弘幸	152	2015	H27
840	伝染病・都市社会・衛生組合：明治期の仙台を事例として	遠城 明雄	152	2015	H27
841	平戸島におけるキリシタンとカトリックの分布と伝播	今里 悟之	152	2015	H27
842	蒙古襲来以後の日本の対高麗関係	佐伯 弘次	153	2016	H28
843	孟津河渡司から沿海万戸府へ：ある水軍指揮官の履歴からみたモンゴル帝国の水運と戦争	船田 善之	153	2016	H28
844	徳川家達と柳田国男：「河井弥八日記」から見る柳田辞職問題	原口 大輔	153	2016	H28
845	モンゴル高原における青銅器時代板石墓の変遷と展開	宮本 一夫	153	2016	H28
846	中世パリ司教座教会における「偽」文書作成(11-12世紀)：ベネディクトゥス7世教皇文書の再検討	岡崎 敦	153	2016	H28
847	訪日外国人の増加と国境地域の変容：石垣島の事例	高木 彰彦	153	2016	H28
848	自然・都市化・インフラストラクチャー：「都市政治生態学」に関する覚書	遠城 明雄	153	2016	H28
849	マラッカの琉球人：ポルトガル史料にみる	中島 楽章	154	2017	H29
850	セイマ・トルビノ青銅器群分布の背景：ロストフカ墓地の分析から	松本 圭太	154	2017	H29
851	同型鏡群における文様・外区の改変事例とその製作技術	辻田 淳一郎	154	2017	H29
852	王のモノグラマが付与された十一世紀のシャルトル司教文書：封建期フランスにおける文書実践と王権	岡崎 敦	154	2017	H29
853	ラスール朝史料における東アフリカ	馬場 多聞	154	2017	H29
854	「地方創生」の地理的含意	高木 彰彦	154	2017	H29
855	セズギ・ドゥルグン著『王の領地から祖国へ』	小笠原 弘幸	154	2017	H29
856	律令国家における儒教政策の変遷：礼の習得と倫理の学修	山下 洋平	155	2018	H30
857	近世朝鮮通信使船の対馬海峡航路	森平 雅彦	155	2018	H30
858	モンゴル青銅器時代墓制の展開：ヘレクスール文化の位置づけを中心に	宮本 一夫	155	2018	H30
859	ヴァイマル共和国初期におけるボード・ウーゼの義勇軍経験：エゴ・ドキュメントにもとづく予備的考察	今井 宏昌	155	2018	H30
860	平戸島における宗教分布と集落空間構成の地形的条件	今里 悟之	155	2018	H30
861	【原典翻訳】ユースフ・アクチュラ『三つの政治路線』	小笠原 弘幸、秋葉 淳、 勝本 英明、山本 敬祐、 坂田 舜、田中 みなみ、 岩元 恕文	155	2018	H30
862	大宝二年筑前国嶋郡川辺里戸籍の故地	坂上 康俊	156	2019	H31
863	The chronology and distribution of Iron Age mirrors in Britain and Ireland	Tsujita Jun'ichiro	156	2019	H31
864	大正後期の「宮中」問題と議会	国分 航士	156	2019	H31
865	12-13世紀におけるポンティウ伯の上級裁判権	大浜 聖香子	156	2019	H31
866	一九一三年下関市の騒擾について	遠城 明雄	156	2019	H31
867	戦時下日本における国土計画と地政学	高木 彰彦	156	2019	H31